



すずき かの
鈴木(新野) 加奈

主婦(育児中)

17

-中・西部-

応募のきっかけは?

下関市を旅行し、綺麗な海に憧れて移住しようと思いました。1度目の旅行の時は、豊北地区の角島などを「綺麗ななあ」で終わらせていましたが、その後、再び訪れた時に「住みたいなあ」に変わりました。移住となると、12年間の栄養士としての仕事を辞めなくてはなりません。でも、以前から知っていた協力隊の制度を使えば、「仕事」と「住まい」の心配がなくなり、移住できると思いました。この制度は本当に良いですね。旅行から帰るや否や下関市の協力隊について調べ、募集を見つけたので、すぐに応募しました。旅行先で移住しようと思った1週間後には面接日が決まり、1ヶ月後には面接のため豊北地区に来ていました。



隊員時代: 野菜マルシェ



大変だったことは?

田舎だと分かった上で着任しましたが、初めての一人暮らしに最初は慣れず大変でした。すぐにホームシックになり、半年間はつらかったですが、地域の方と一緒にイベントに参加するうちに楽しくなり、そうした活動の中で、自分自身が成長していると実感できるようにもなりました。少しずつ知り合いも増え、自分を出せるようになり、青年部や地域の友人に悩みを相談できるようになりました。

隊員時代の思い出を教えてください

私のように下関市の魅力をきっかけに移住する人が増えるような活動をしたいと思い、着任後すぐに始めたのが、「地域おこし協力隊通信」

の発行です。2ヶ月に一度のペースで、地域で手に入る食材の紹介やそれらを使ったレシピ、移住後に気になった方言を掲載しました。

豊北地区の綺麗な海を眺めながらのヨガイベント「ビーチヨガin豊北」など、人を呼ぶ企画も実施していましたが、コロナ禍となり、活動の内容によっては方向転換をしないといけないことも経験しました。そんな中、「地域の中で、できることは無限にある」と思い至り、やりたいことを1つに絞らず、できないことなく、今できることを見つけて活動しました。

現在、そしてこれからについて

現在、子育て中です。コロナ禍ですし、いろいろ出歩けない不便さもあり、「どこの小児科が良いか?」などの子育てに関する細々とした情報の入手が難しいと感じています。

子育てが一段落したら、協力隊の時のように地域を盛り上げるイベントなどを豊北地区でまたやりたいと思っています。一緒にやってくれそうな人は周りにたくさんいます。

協力隊を目指す人や後輩への伝えたいこと

住む地域を好きになることが一番です。



すずき かの
鈴木 加奈さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 下関市
| 活動期間 | 2018年4月~2021年3月
| 活動内容 | 地域特産品の開発

▶ 現在の仕事

主婦(育児中)



隊員時代: ヨガイベント



鈴木さんのあゆみ

- 2004. ○ 友人と下関市などを旅行
- 2017.07 ○ 家族で下関市などを旅行
- 2018.04 ○ 協力隊着任
- 2018.08 ○ 商工会青年部に所属し
- 2018.09 ○ イベント(海峡花火大会、馬関まつりなど)参加
- 海でのヨガイベント企画(2019年6月も企画)
- 2020.04 ○ 野菜マルシェ企画(卒業まで月に1度)
- 2021.03 ○ 野菜ソムリエ取得
- 協力隊卒業
- 2021.11 ○ 出産